



2022(令和4)年4月25日発行

発行／大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)
住所／〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15
TEL／06-6879-5111(代表)

QRコードから本院ホームページをご覧ください

<https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

新型コロナウイルス
感染症対策について

本院では、入院時や特定の検査の前に新型コロナウイルス感染症の抗原定量検査を実施しております。この抗原定量検査については常に行っているわけではなく、流行状況に合わせて実施や中止の判断をしております。これは、流行期には無症状の方でも一定の割合で新型コロナウイルスに感染している方がおられ、そうした無症状の感染者の方から周囲の方に感染が広がったりすることがあるためです。本院の感染対策に協力のほどよろしくお願いいたします。

また、本院は職員への新型コロナワクチン接種を積極的に行い、体調不良時には勤務をしないなど感染対策を日頃から心がけています。患者さんに新型コロナウイルス感染症を広げないために、職員はマスクの着用を徹底していますが、患者さんもマスクを着けることでご自身を守ることに繋がりますので、こちらについてもご協力よろしくお願いいたします。

面会については、現在流行しているオミクロン株に対してはワクチン接種をしていても完全に感染を防ぐのは難しいことから、3日以内のPCR検査で陰性と確認できた方だけに限定させていただいておりますが、流行状況を見て緩和していきたいと考えております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

令和7年運用開始予定の「統合診療棟」の建設工事が始まっています。工事期間中は、騒音や工事車両の通行等、ご不便と迷惑をおかけしますがご理解と協力のほどよろしくお願いいたします。また、公共交通機関にて来院可能な方は、混雑緩和のため、モノレール・バス等をご利用いただきますよう、よろしくお願いいたします。

新病院長インタビュー

高度で安全、そして納得の医療を

大阪大学医学部附属病院長
竹原 徹郎

4月1日付で本院の新しい病院長に消化器内科の竹原徹郎教授が就任しました。本院では現在、再開発事業や医師の働き方改革などさまざまな取り組みが進められています。竹原病院長に、抱負をお聞きしました。

■今ここにある医療と未来の医療のために

本院の重要な役割は「地域の医療を守ること」と「将来の医療を創り出すこと」です。私は病院長として、高度で安全な医療の提供に尽力し、患者さんに安心、そして満足していただきたいと考えています。ここでは、より良い医療のために変わりつつある本院の状況をお伝えします。

■3年後に統合診療棟

昨年、外來棟の北側で統合診療棟の建設工事を進めています。これは令和7年春に運用開始を予定している地上8階、地下2階の建物で、病棟と通路でつながります。外來機能のほか、最新の設備

■地域の医療機関と連携

今年1月、患者包括サポートセンターがスタートしました。「包括」の言葉の通り、地域の医療機関からの紹介で訪

れた患者さんの一連の診療をまとめてサポートします。制度についての相談を入院前から受けたり、退院後に通院する地域の医療機関と連絡を取ったりします。

これまでは、患者さんが来院されたら治療をし、それで終わりというのが一つの病院のスタイルでした。しかし、今の時代は、入院前や退院後の困りごとにも対応し、患者さんの生活を尊重して治療していく機能が求められています。患者包括サポートセンターにより、患者さんの考え方や希望に沿った包括的な医療を推進していきます。

■多様な働き方を模索

医師の働き方改革は喫緊の課題です。日本の医療は、国際的に非常に高いレベルを保つ一方、医師の過剰な長時間労働に依存してきました。医療の複雑化はさらに進み、負担が増えています。しかし、このまま医師の過剰労働に頼っているだけでは、医師の健康を損ねる恐れがあるだけでなく、患者さんの治療に



メッセージを動画で公開しています



■新型コロナにも対応

地域医療への貢献に関して触れなければならぬのが、新型コロナウイルス感染症への対応です。本院は主に新型コロナウイルス重症患者の治療に取り組んでいます。集中治療部の30床全てが新型コロナウイルスの患者さんで占められる大変な時期もありましたが、職員一丸となり乗り越えました。また、大阪府が設置した大阪コロナ重症センター等に医師や看護師、医療ソーシャルワーカーを派遣したり、感染対策を専門とする医師が大阪府に助言したりしています。

■患者さんが納得する医療を

治療して病気が治れば一番ですが、患者さんの中には治らない病気を患う方もおられます。病気が付き合っていくかなければならないこともたくさんあります。そのような場合でも、病気の状況が分かったり、ちょっとした良くなったたりすれば、不安を軽減することもできると思います。そういった納得の医療を提供したい。私は、そう考えています。

執行部一覧

令和4年4月1日現在



病院長

竹原 徹郎

副病院長

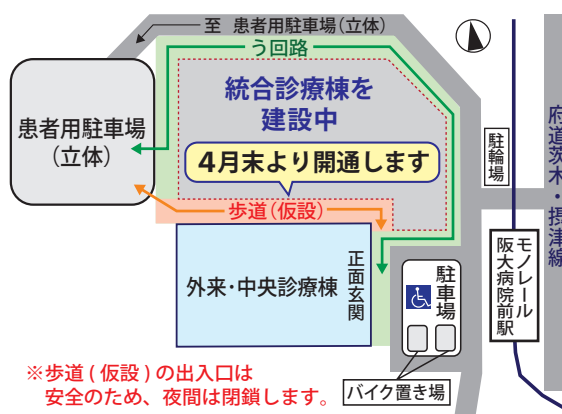
人事労務・医療安全 坂田 泰史
財務・がん診療 野々村 祝夫
教育・診療体制 藤野 裕士
ホスピタリティ 岩崎 朋之

病院長補佐

小児・周産期・再開発 木村 正
研究・臨床研究中核病院 江口 英利
中央診療施設 小川 和彦
広報・中期目標・計画 猪阪 善隆
医療情報・地域医療・外部評価 武田 理宏
救急医療 織田 順
女性支援・ダイバーシティ 中島 和江
経営・組織改革 山腰 俊昭

半導体SPECT/CT装置
を導入しました

昨年8月、全国に先駆けて半導体SPECT/CT装置「VERTON-CT」II写真IIが本院放射線部に導入されました。本装置は複数の検出器を使用し、360°方向からの情報を同時に収集できる「eegoo」プロセスで、心臓などの特定臓器をターゲットに収集できる「Focus ROI Scan」を特徴とします。それにより、従来のクリスタルと光電子増倍管を用いたSPECT/CTに比べて格段に感度が高く、検査時間

患者用駐車場からの
歩道整備について

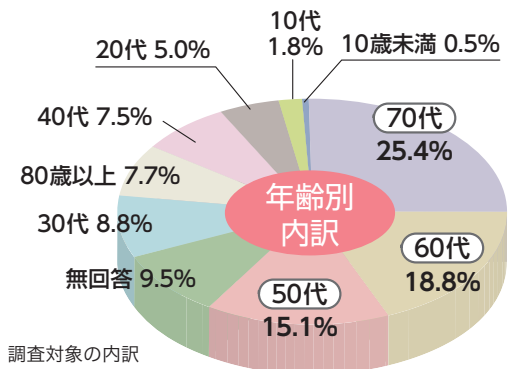
※歩道(仮設)の出入口は安全のため、夜間は閉鎖します。

が4月末に開通できる運びとなりました。なお夜間は、安全確保のため閉鎖しますので、同様の通行をお願いします。また、公共交通機関にて来院可能な方は、混雑緩和のため、モノレール・バス等をご利用いただきますよう、よろしくお願いいたします。

入院患者さん



平均 **92.2%** (回答数=623)



入院患者さん 満足度ランキング

ベスト5	1位	薬剤師の態度や言葉遣い	99.1%
	2位	看護師の態度や言葉遣い	99.0%
	3位	氏名、病名、薬の確認や伝達等	98.5%
	4位	検査スタッフの態度や言葉遣い	98.3%
	5位	入院中に受けた看護	98.0%
ワースト5	1位	お見舞いや面会時間	57.1%
	2位	トイレや浴室の環境・設備	77.8%
	3位	携帯電話やインターネット環境	78.5%
	4位	外来から入院までの期間	81.9%
	5位	苦情相談窓口設置場所の分かりやすさ	82.6%

令和3年度

満足度調査

結果発表

外来患者さん、入院患者さんを対象とした満足度調査にご協力をいただき、ありがとうございました。このたび令和3年度の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

調査期間 **外来** 令和3年8月30日～9月3日の5日間
入院 令和3年10月1日～10月21日の21日間

調査結果 外来患者さんの89.7%、入院患者さんの92.2%の方に、「満足」「やや満足」のご回答をいただきました。満足度の低い項目は、外来では「駐車場整備等」「診察や会計の待ち時間」、入院では「お見舞いや面会」「トイレ・浴室設備」でした。

これからも患者さんにとって心地よく、治療に専念できる環境を整えていきたいと考えております。より多くの患者さんのご意見を伺いたいと思っておりますので、今後ともご協力の程よろしくをお願いいたします。

具体的なコメント例
入院患者さん

- ♥皆さんの対応が親切で説明も詳しく安心して過ごせました。
- ♥看護師さんが明るく丁寧に快適な入院生活でした。
- ♥担当の先生がいつも丁寧にこちらが納得するまで説明してくれ、大変感謝しております。
- ♥医師や看護師が親身になり優しく接してくれて大変心地よく過ごすことができました。
- ♥食事がすべて美味しかったです。
- ♥清掃スタッフの仕事ぶりに深く感銘を覚えました。
- ✦面会やお見舞いを可能にしてほしい。
- ✦トイレ、シャワー室の汚れが気になりました。
- ✦エレベーターの待ち時間が長い。
- ✦食事がワンパターン。
- ✦フリーWi-Fiが繋がりにくい。

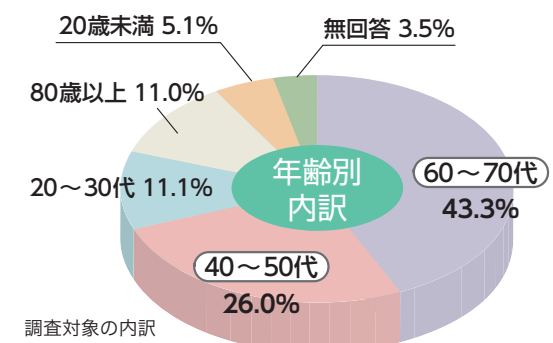
具体的なコメント例
外来患者さん

- ♥患者に寄り添ってくれる医師、看護師さんに大満足。
- ♥受付、看護師さん、先生、皆さん笑顔でよく話を聞いてくれるのでとても安心します。
- ♥医師や技師、栄養士さんが毎回丁寧に丁寧にしてくださり、気持ちよく受診できてます。
- ♥医療費後払いサービスはとても便利でよかったです。
- ♥コロナ禍の中、診療に携わる医療スタッフの皆様には心から感謝申し上げます。
- ✦診察、会計の待ち時間が長い。
- ✦予約をしていても毎回大幅に遅れる。
- ✦バイク置き場が狭く屋根がない。
- ✦駐車場が遠い。
- ✦休憩スペースを増やしてほしい。
- ✦待合室が密になっている。

外来患者さん



平均 **89.7%** (回答数=2671)



外来患者さん 満足度ランキング

ベスト5	1位	診察室が清潔で整理整頓されている	97.7%
	2位	検査スタッフの態度や言葉遣い	97.5%
	3位	看護師の態度や言葉遣い	97.2%
	4位	医師の態度や言葉遣い	97.1%
	5位	禁煙対策の徹底	97.1%
ワースト5	1位	駐車場の広さや台数等	44.1%
	2位	診察までの待ち時間	59.9%
	3位	会計の待ち時間	67.7%
	4位	診察待ちでの声掛け等の配慮	79.2%
	5位	会計待ちでの声掛け等の配慮	81.9%



重症化した新型コロナウイルスの患者さんは本院の集中治療部で症状が安定すると一般の病院に転院することがあります。しかし、転院搬送の際には感染対策のために寝台を患者さんごとビニール袋で覆わねばならず、医療者からは患者さんの様子がわかりにくく、何より患者さんにとって窮屈なため、この搬送は患者さんにも医療スタッフにも負担となっていました。そこで本院高度救命救急センターでは、この搬送のための機器開発に取り組みことになりました。感染対策に優れ、患者さんの快適性と医療安全に配慮し、医療機器を使用してきてメンテナンスも容易であるようにと工夫を重ねた結果、まゆ型の密閉・透明カプセルのアイソレーター（イメージ）にたどり着きました。さらに本学でこの開発資金のためにクラウドファンディングを実施したところ、目標額1000万円を上回る約1800万円のご寄付をいただき、交換用カバーも併せて開発・製造できるめどが立ちました。

開発を進めていたアイソレーターは昨年11月26日に完成し、さっそく活用され効果を上げています。まゆ型透明カバーは樹脂製で気密性が高く感染対策に効果的で、容態やモニター機器を視認しやすく安全性が高まる点にも患者さんの快適性も向上しました。内部に人工呼吸器を設置することも可能で、使用後の拭拭などのメンテナンスにも優れます。ご寄付をいただいた皆さまに厚くお礼申し上げます。本院では社会的役割を果たすべく重症患者さんの診療にも引き続き取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

アイソレーターが完成しました

阪大病院オリジナル

令和4年度 優秀標語表彰式

今年度の標語が決定

接遇・マナー向上目指して

2月25日、病院長室において、土岐祐一郎病院長(当時)から4名の優秀標語作成者に表彰状と副賞が授与されました。

患者サービス検討委員会では、職員の一人ひとりが患者さんの立場に配慮できるような努めるとの趣旨で、接遇・マナー向上に関する標語を掲げております。

このたび、院内で標語を募集し、患者サービス検討委員会で検討の結果、以下のように優秀作品を決定いたしました。



「顔の向き変えるだけで「安心」」
(リハビリテーション部 吉川 奈津美さん)

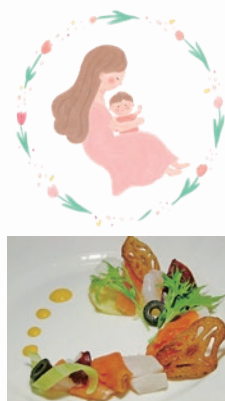
「手を止めて焦ったときこそ深呼吸」
(医事課患者サービス係 藤井 歩美さん)

「挨拶と笑顔で与える「安心感」」
(リハビリテーション部 加藤 和輝さん)

「再確認 思い込みより確かな情報」
(医事課患者サービス係 中村 名見子さん)

総合周産期母子医療センターで

出産御膳の提供開始



写真はイメージです

総合周産期母子医療センターでは昨年は約700件の分娩に対応し、年々分娩数が増加しています。そこで本年4月より当センターにて分娩された患者さんに出産御膳を提供させていただくこととなりました。ご出産後の入院中から退院後半年の間にスカイレストラン(本院14階)、レストランミネルバ(本学吹田キャンパス銀杏会館2階)、オールデイダイニングリモネ(リーガロイヤルホテル(大阪)1階)での特別料理等をお楽しみいただけます。また、リーガロイヤルホテル製品のお菓子等をご選択いただくこともできます。出産後お忙しいとは思いますが、ゆったりとしたひと時を楽しんでいただけたらとスタッフ一同願っております。ぜひご利用ください。

新 診療部門長等ごあいさつ

●感覚・皮膚・運動系科
部門長おかだ せいじ
岡田 誠司

(令和4年4月1日就任)

感覚・皮膚・運動系科部門長を拝命いたしました整形外科・リハビリテーション科長の岡田です。本部門は、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、整形外科、皮膚科、形成外科、リハビリテーション科からなり、部門内、また内科系や外科系など他部門の様々な診療科と密接に連携しながら診療を行っています。患者さんにとって最適な、安全でかつ最先端の診療をさらに進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

●女性・母子・泌尿生殖科
部門長きむら ただし
木村 正

(令和4年4月1日就任)

本部門は、産科・婦人科・小児科・泌尿器科・生殖医療センターなど男性・女性・小児の悪性腫瘍の治療、小児疾患全領域(小児難病含む)、妊娠・出産、新生児集中治療、腫瘍以外の機能性疾患や良性腫瘍、妊娠できない方への生殖医療を担当する診療科(産科・婦人科・小児科・泌尿器科)からなります。多くの対象疾患があり、それぞれが協力し合いレベルの高い医療を展開しております。今後とも当部門をよろしくお願いいたします。

●未承認新規医薬品等診療
審査部長さかた やすし
坂田 泰史

(令和4年4月1日就任)

本院は、基本方針に高度先進医療・未来医療の開発・実践を掲げており、その一環として承認されていない新しい治療法にも取り組んでいます。その安全性、妥当性は客観的に保証されていなければなりません。そこで、平成29年より「未承認新規医薬品等診療審査部」を設置し、安全性、実施を認める条件、さらに適正な手続きで行われているかを定期的に確認しています。安全かつ質の高い医療を受けて頂けるように努力してまいります。

●総合周産期母子医療
センター長きむら ただし
木村 正

(令和4年4月1日就任)

産科・小児科NICU・麻酔科他すべての診療科・センターの総力を挙げてあらゆる病気・状態の妊婦・新生児の皆さまに対して分娩・出産後の治療に当たっています。無痛分娩は麻酔科が中心となり、常時陣痛発来後に対応します(無用な誘発はしません)。産後安定した方には地元施設で過ごしていただく、分娩・治療と産前・産後ケアの分離を開始し、多くの皆さまに貢献できる体制づくりをしています。ご利用をお待ちしております。



●ハートセンター長

みやがわ しげる
宮川 繁

(令和4年4月1日就任)

ハートセンターは、循環器内科、高度救命救急センター、感染制御部、集中治療部、臨床工学部、看護部、医療技術部、心臓血管外科から成り立っております。患者さんにとってベストな高度医療を提供し、重症度が高い患者さんを治療しながらも国内での治療成績はトップクラスで、最終受け入れ病院としての役割を果たしております。循環器疾患に罹患する重症患者さんの最後の砦としての機能を維持し、高度医療の開発と実践を行っていきます。



●脳神経精神科部門長

もちづき ひでき
望月 秀樹

(令和4年4月1日就任)

脳神経精神科診療部門は、神経内科・脳卒中科、神経科・精神科、脳神経外科、麻酔科の4診療科で構成されています。それぞれが、遺伝子診療部、脳卒中センター、睡眠医療センター、疼痛医療センター、難病医療推進センター、緩和医療センターなどとも連携しながら検査や診療を行なっております。先端医療や治験なども推進しており、臨床研究中核病院として最先端の医療をお届けします。どうぞよろしくお願いします。



●医療情報部長

たけだ としひろ
武田 理宏

(令和4年4月1日就任)

このたび、医療情報部長を拝命いたしました。当部は電子カルテの企画、運営をしております。患者さんの情報をしっかりと預かりし、職員間で情報共有するだけでなく、地域連携システムや医療情報銀行を通じて、地域の医療機関や患者さんとの情報連携を行ってまいります。また、電子カルテを用いて、患者さんに安全な医療を提供してまいります。部長として精一杯努力いたしますのでよろしくお願いいたします。



●手術部長

たかしな まさき
高階 雅紀

(令和4年4月1日就任)

本院の手術部は、国立大学病院の中でも最多の手術を行っている外科治療の要です。現在、3年後に完成する統合診療棟への移転に備えて着々と準備を進めているところです。新しい手術部は、高度な外科治療を支援できる高機能手術室により、皆さまの治療に貢献する事を目指します。以前から兼務している材料部と臨床工学部との連携をさらに深めて、安心して安全な外科治療を受けていただけるようにスタッフ一同努力してまいります。



●内視鏡センター長

どき ゆういちろう
土岐 祐一郎

(令和4年4月1日就任)

2年ぶりに内視鏡センターに戻ってまいりました。前任の時から、内視鏡センターのスペースの拡充を少しずつ行ってきましたが、現在の外来・中央診療棟の中では限界です。特に鎮静内視鏡枠の制限により多大なご迷惑をおかけしています。根本的な解決は2025年の統合診療棟の運用開始まで待たねばなりません。それまでの間少しでも患者さんやスタッフの利便性を向上するように効率的な運用を心がけていきたいと思います。



●消化器センター長

えぐち ひでとし
江口 英利

(令和4年4月1日就任)

このたび、消化器センター長を拝命いたしました。食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓などで構成される消化器に疾患が発生した場合には、内科的治療が望ましい場合も、外科的治療が望ましい場合もあります。さらには二つを融合した新たな治療法が選択される場合もあります。本院では、消化器疾患に関わる医師が消化器センターとして一体となり、知識と技術の粋を集め、患者さんにとって最良の治療を提供してまいります。

令和4年度

「病院教授」の称号付与について

病院教授の称号は、大阪大学医学部附属病院における診療・研究・教育の充実のため、特に臨床面で優れた業績が認められる者に対して付与しているものです。

令和4年度は下記の20名に「病院教授」の称号を付与することを決定しました。

番号	診療科等名	氏名	職名
1	循環器内科	彦惣 俊吾	准教授
2	呼吸器内科	武田 吉人	准教授
3	老年・高血圧内科	山本 浩一	准教授
4	心臓血管外科	戸田 宏一	特任教授(常勤)
5	消化器外科(下部消化管)	小林 省吾	准教授
6	消化器外科(上部消化管)	黒川 幸典	准教授
7	乳腺・内分泌外科	下田 雅史	准教授
8	眼科	松下 賢治	准教授
9	整形外科	田中 啓之	特任教授(常勤)
10	麻酔科	大瀧 千代	講師
11	産科婦人科	澤田 健二郎	准教授
12	泌尿器科	今村 亮一	准教授
13	臨床検査部	日高 洋	准教授
14	放射線部	巽 光朗	准教授
15	総合周産期母子医療センター	北畠 康司	准教授
16	輸血部	柏木 浩和	准教授
17	集中治療部	内山 昭則	准教授
18	高度救命救急センター	小倉 裕司	准教授
19	臨床工学部	高階 雅紀	准教授
20	化学療法部	水木 満佐央	准教授

※上記の称号付与者の職名等は令和4年4月1日現在のものです。

●摂食嚥下
センター長いのはら ひでのり
猪原 秀典

(令和4年4月1日就任)

高齢者の肺炎の70%以上は誤嚥性肺炎が占め、摂食嚥下障害に対する積極的な取組みが求められています。そこで、チーム医療を構築するべく摂食嚥下センターを開設しました。医師(耳鼻咽喉科・頭頸部外科、リハビリテーション科)、歯科医師、言語聴覚士が連携し、診断からリハビリテーション、歯科治療、嚥下改善手術、誤嚥防止手術までシームレスに対応します。将来的には看護師、薬剤師、管理栄養士との連携も図る予定です。

●未来医療開発
部長えぐち ひでとし
江口 英利

(令和4年4月1日就任)

未来医療開発部は、新規医療の開発や実用化の支援を行う「未来医療センター」、高品質な臨床研究実施の支援を行う「臨床研究センター」、高精度な臨床データの管理・解析を行う「データセンター」、医療技術の国際化や医療者の国際交流に貢献する「国際医療センター」で構成されます。四つのセンターの連携により、本院が未来医療の実現に貢献できる体制を築き、革新的な医療技術を世界の患者さんに届けてまいります。



●医療技術部長

ふじの こういち
藤埜 浩一

(令和4年4月1日就任)

医療技術部は検査、放射線、リハビリ及び臨床工学部門に属する医療技術職員と救急救命士を一元管理し、効率かつ適切な要員配置による病院運営、診療支援及び患者サービス向上を目的とした多職種による専門集団です。今後さらに部内の相互理解を深め、専門技術のスキルを一層向上させ、良質な医療技術を円滑に提供することで、さらなる病院の発展に貢献していきます。ご協力とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

PHOTO

ホスピタル
ミニ・ニュース

TOPICS

令和3年
12月4日

令和3年度の防災訓練を実施

コロナ禍での複合災害という想定のもと、災害傷病者役(保健学科・学生)のトリアージ(患者の緊急度判定・選別)を本院トリアージ施設において行い、各診療エリアに搬送するという内容の訓練及び感染制御部による検証を実施しました。また、大阪府からの要請を想定したDMAT活動拠点本部の設営訓練も同時に実施しました。



訓練を通して得られた教訓を活かして災害拠点病院としての使命を果たせるよう努めてまいります。

令和4年
2月4日本院
初

「特定看護師」を認定

写真は左から土岐祐一郎病院長(当時)、田中寿江特定看護師、中西美貴特定看護師



2月4日に院内初となる「特定看護師」が2名認定されました。「特定看護師」とは、看護師特定行為研修を修了後、さらに医師の指導を受けながら実践を重ね、単独実践が認められた看護師です。今後は、高度な知識、技術、判断力をもとにこれまで医師のみが実施してきた医療行為を患者さんの病状に応じて、実施していきます。

令和4年
2月18-28日

未来医療フォーラム

土岐祐一郎病院長(当時)、西田幸二眼科長、忽那賢志感染制御部長による本院の未来医療への取り組みについての講演を事前申込者限定でWEB配信しました。昨年度に引続き大変好評でしたので講演動画を本誌86号の読者に向けて再公開します。ぜひご覧ください。

動画はこちら



市民公開フォーラム「がんと免疫」

令和4年3月8-22日



- ①がん免疫療法—開発の歴史と最新の話題—呼吸器・免疫内科 講師 西田 純幸
- ②がんゲノム医療の現状と免疫療法がんゲノム医療センター 特任講師 坂井 大介
- ③細胞を用いた新しいがん免疫療法—CAR-T療法について—血液・腫瘍内科 助教 福島 健太郎
- ④がん患者さんが新型コロナウイルス感染症で気を付けること 感染制御部 部長・教授 忽那 賢志

本院では厚生労働省による「がん診療連携拠点病院機能強化事業」の一環として一般の方々を対象にがん診療に関する様々なテーマについて市民公開フォーラムを開催しています。第17回目となる今回は「がんと免疫」をテーマにweb配信の形式で開催しました。

参加された方からもっと広く発信をして欲しいとのご意見を多数いただきましたので、阪大公式YouTubeで公開しました。ぜひご視聴ください。

動画はこちら



令和3年度 ホスピタリティ賞表彰式

令和4年3月17日



ご意見箱に寄せられた謝意の多かった部署を表彰しました。

- ♥西12階病棟 泌尿器科
- ♥東12階病棟 糖尿病・内分泌・代謝内科、免疫内科
- ♥東13階病棟 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- ♥栄養管理室

血液・腫瘍内科

白血球、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった血液のがんは、もはや不治の病ではありません。血液・腫瘍内科では令和4年4月1日現在で科長を含めてスタッフ28人が造血器悪性疾患に対する最先端の化学療法や造血幹細胞移植を中心に、患者の皆様の治療を目指し治療に取り組んでいます。

病気の原因となるタンパク質など特定の分子だけに絞って作用するよう設計された分子標的治療も症例に応じ積極的に実施しています。自己、血縁者間、骨髄、臍帯血などの移植治療についても社会の理解が少しずつ広がり、バンク登録者も増えてきました。移植技術の向上により、従来なら移植を受けることが困難だった症例でも移植できるようになっていきます。

令和3年の主な疾患の入院患者数は延べ444人。造血幹細胞移植の実施数は35回でした。血液から取り出したリンパ球に、がん細胞だけやっつける遺伝子を入れ改造したリンパ球を体内に戻すCAR-T細胞療法が平成31年(令和元年)に保険適用されました。対象疾患は急性リンパ性白血病、悪性リンパ腫に加え、多発性骨髄腫への保険適用も近く実現する見通しです。当科ではCAR-T細胞療法を早くから開始し、令和3年は8症例に実施しました。

まず。再生不良性貧血、血小板減少症、溶血性貧血など良性的な血液疾患においても先駆的治療を展開し、希少な難病も含めた全ての症例に対応できる第一級の専門家が揃っています。

T細胞リンパ球をがんと出会わせてがんを傷害させる働きを持つバイススペシフィック抗体を用いた治療も保険適用され、積極的に実施しています。抗体に抗がん剤がついている抗体薬物複合体を用いた治療も可能です。いずれもがん細胞だけに効き、従来の抗がん剤のように健康な細胞に悪影響が出ることはありません。

大阪・北摂地域を先導し、地域に根ざす最先端医療機関として、今後も地元医療機関・医師会との連携に努めます。貧血でなかなか改善しないなど気になる症例は何でも気軽にご相談下さい。

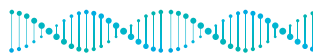
*CAR-T細胞療法は本紙のミニ・ニュースで紹介している市民公開フォーラムで詳しく解説しています。

移植や化学療法で血液疾患を治療

難病含め全症例に対応

遺伝についての悩みや疑問を話してみませんか？

遺伝子診療部



近年、医学は大きく進歩し、親から子へと受け継がれる遺伝情報の解明が進んでいます。遺伝子診療部は、自身や家族の遺伝に関するあらゆる相談に対応するため、「遺伝カウンセリング」を中心とした活動を行なっています。

例えば「この病気は子供に遺伝するの?」「家族にがんの罹患者が多いが、がんの家系なの?」など、どこに相談してよいか分からない悩みや疑問について、専門スタッフがじっくりとお話を伺います。臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー、臨床心理士、など、複数のスタッフによるチームアプローチを基本としており、心理的・社会的なサポートも実施しています。

外来枠としては「一般の遺伝カウンセリング」「出生前遺伝カウンセリング」「遺伝サポーター」があり、一般の遺伝カウンセリングでは、先天性代謝異常症や神経筋疾患、遺伝性腫瘍のほか、難聴や家族性パーキンソン病などを含む、どんな遺伝に関わる相談にも対応しています。出生前遺伝カウンセリングでは、羊水検査や母体血胎児染色体検査(NIPT)などに関する遺伝カウンセリングを行っています。

近年、遺伝情報に対する認識は大きく変化し、遺伝による体質の特性を健康管理に活かしたり、医療に役立てようとする取り組みも着実に進んでいます。当部は、遺伝カウンセリングにおける課題の検討や遺伝に関する最新問題についての議論を積極的に行っているほか、遺伝医学普及のための院内セミナーや、臨床遺伝専門医の研修など人材育成にも取り組んでいます。遺伝に関する相談をご希望の方は、記載の直通番号までご連絡ください。認定遺伝カウンセラーが対応し、遺伝カウンセリングの日程などを調整します。

06-6879-1655
13時〜17時
(直通)平日9時〜12時

遺伝カウンセリングは、認定遺伝カウンセラーや臨床心理士に遺伝について気になっていることを気軽に相談したいという方のために設置されており、どんなでもご利用いただけます。遺伝カウンセリング料は基本的に自己負担となるものが多いですが、最近は医療の一部として認められ、医療保険の適用範囲も次第に広がっています。お問い合わせください。

令和4年度 阪大病院

がんサロン

開催のお知らせ



がん相談支援室では、今年度も「治療を乗り切るセルフケア力を高める」をテーマに、オンラインによる「阪大病院がんサロン」の開催を予定しています。

「治療前になぜ虫歯治療が必要なのか?」「治療中でも市販薬を使って良いのか?」「治療で体力が落ちることが不安…運動は?食事はしたら良いのか?」などの不安や疑問を感じたことはありませんか?

歯科医師、薬剤師、理学療法士、栄養士から、患者さんご自身ができる生活の工夫をはじめ、治療に役立つ情報をお話いたします。

各講演の詳細は、掲示板や病院ホームページでお知らせしていきます。お気軽にご参加ください。



栄養マネジメント部長おすすめ

スマイル御膳



MENU

- ・バターチキンカレー
- ・焼野菜盛り合わせ
- ・サラダ
- ・ご飯
- ・デザート

下村伊一郎部長おすすめ御膳は、毎年さまざまなカレーを提供しています。一昨年の焼きカレー、昨年のカレーうどんに続き、今回はバターチキンカレーです!デザートは、一般治療食は桜の塩漬を使ったゼリー、特別治療食はココナツプリンに桜型のゼリーをのせました。また、お花見をしているような気持ちで食事を楽しんでいただけたらと思い、満開の桜の写真を印刷したランチョンマットを添えて、春らしさ全開のメニューに仕上げました。